

伊東市 八幡野地区協議会 WS資料

【1・2・3グループ】

開催日 分類	H27.4.22地区協議会 意見	考えられる対応策	H27.11.26地区協議会(今回) 意見
堤防整備 (防潮堤)	防潮堤の嵩上げと延長 船揚場の所に波が集中するのでは 堤防の強度が津波に耐えられるのか	・L1の津波高による、住居地区 への浸水は少ないことが想定さ れています。	舟上げ場の防潮堤は必要ない 舟上げ場の1.5mについては必要ではない。 ダイバーや海水浴のお客さんの避難路のさまたげになる。 八幡野漁港の第一堤防と第二堤防の嵩上げと消波ブロック(第一の外)の追加 台風 船上げのワイヤーが機能しない 堤防を作るメリットよりも逃げにくくなる(利用しにくくなる)デメリット大きい 堤防の高さは6.5mほしい 6.5mで駐車場の後ろに設置 6.5mの堤防をつくる。写真の駐車場の後を通る
がけ崩れ	急傾斜があり崖崩れが考えられる 土砂崩れがおきないか 建物が道をふさいでいる	(県)市 ・砂防事業、急傾斜地崩壊対策 事業の活用 ・土砂災害防止法による区域指 定、警戒避難体制の整備	
避難場所 (高台避難)	広い道から逃げる 高い場所に逃げる 高いところへ逃げる 高い場所 近くの旅館の最上階へ 高台(安全な場所)へ避難する より高い施設へ移動する 港から高台へ避難する 通常の場合は1~2分で12m以上の高さまでいける 4分以内で船揚場から大通路を通り20m以上まで到着で きる 津波の到達前に崩れていない道をさがし、高台まで逃げ る(太陽橋のマンション広場or上町まで) まず自分の家がすぐ高い所にあるので、自宅へ急ぎます 高いところへ逃げる  地震発生時は動けないので、地震発生後は海の確認、そ の後避難場所(下町マンション)へ移動→分団詰所  第1避難場所 ヴェルエール伊豆高原(海拔19m)  近くの人に呼び掛け逃げる 国道に向かって走る  自分の家の様子をみる 避難タワーがあっても	・八幡野小、対島中、城ヶ崎高校 が広域避難場所。幼稚園とコミセ ンが避難所となります。  ・できるだけ高台(海から離れる) まで逃げる。(絶対はない)	45世帯 避難タワー 下町に欲しい 地震で避難路がふさがれないようにして欲しい 道路に大きな矢印を入れる。避難方向を示すため 6.5m施設 山側への移動(駐車場奥に作る) 5名 堤防の建設素材がわからないが観光の売りである景観に違和感のない様なデザイン等はできないか(スケルトンで一部はムリ?)
避難路	障害物、路上、頭上 避難通路の確認(安全) 逃げ道が崩れていないか ガケくずれ 避難路が分からない、案内図が必要 以前市役所内で伊東観光客用津波非難マップ制作に参 加したが、八幡野地区にも同様のマップを作りたい	・自主防災会ごとに津波避難行動 計画の作成をお願いします。  ・今年度中に、津波ハザードマ ップを配布する予定です。避難場所 までの避難経路について、自身で シミュレーションしておくことが重 要です。  ・大地震が発生した後はしばらくは 余震が続くことが予想されますの で、余震によるブロック塀等の倒 壊にも注意が必要です。	お墓の所、マンション、ダイビングショップ避難路の整備 天王山の坂 避難路が急なため手すり必要
人的障害 (パニック) (人の集中) (観光客・要 援護者対 策)	パニック状態の中でどうゆう行動を取るか 多くの人がいって逃げることができるか 高いところへ逃げるルートが狭い道で、人が殺到してしま う 避難路に人が集中して逃げれない 避難路が狭く危険である イベント参加者がいっぺんに同一方向に逃げるとパニック 状態にならないか 避難路が狭いため(花火大会のとき)将棋倒しになるおそ れがあるので気をつける 観光客への避難の呼びかけ 津波をどのように観客に知らせるか、パニックになる 大声で避難する場所を告げる 大声で逃げると声掛けし高台へ 避難路へ移動する 第一に即避難、漁港船揚場右側に高台あり(20m) イベント会場では津波の避難経路の標示がある。事前に 放送で案内します 老人対策 負傷者対策、被害(大) マイクで観客に(実行委員として)高台へ逃げるよう案内	・家族、ご近所等で、あらかじめ 地震発生時の行動を話し合っ ておくことが重要です。  ・発災直後は、自助、共助が必要 となります。  ・高齢者や障害者については、あ らかじめ災害時要援護者避難支 援計画(個別計画)を作成しておく 必要があります。(社会福祉課で 作成中)  ・イベント(花火大会)開催時に は、事前に避難のための通行路 を確保するなどの工夫をしてくだ さい。(按針祭のように。)	
誘導 (避難行動)	どう誘導するのか 誘導が難しい 誘導 自動放送 マイク(スピーカー)が必要 火災、屋外につき避難用、案内看板設置場所 安全に行動 まず地震の揺れについて自信で判断、とにかく自身の身 の安全を図る 鎌度の違い 車両の移動	・Jアラート、同報無線、メールマ ガジン、ラジオ等により情報収集 をしてください。  ・発災直後は、自助、共助が必要 となります。  ・家族、ご近所等で、あらかじめ 地震発生時の行動を話し合っ ておくことが重要です。  ・安否情報は「災害用伝言ダイヤ ル171」を活用してください。	
心配	水路が心配		
その他	まず頭・体を守りながら地震の揺れの収まるのを待つ 自宅に戻れたら家族等の安否の確認		